

## AttunityとCognosにより レポートニングと分析において権力の座をつかんだJM Family



### JM Family:

米国の巨大な株式非公開自動車企業

業種:自動車産業

### 必要とされたもの

- ・複数データソースへのアクセス
- ・効率的なデータレプリケーション
- ・ニアリアルなデータ統合
- ・1つのソリューションでの標準化

### プラットフォーム:

- ・Microsoft SQL Server
- ・Sun Solaris
- ・Informatica
- ・IBM DB2/MVS
- ・Oracle 9i
- ・BEA Weblogic

### ユーザ:

- ・Southeast Toyota Distributors, LLC.
- ・World Omni Financial Corp.
- ・JM&A Group

### ソリューション:

- ・Attunity Integration Suite  
- Connect & Stream
- ・Cognos 7 Impromptu 及び PowerPlay
- ・Informatica PowerCenter 7

JM Family Enterprises, Inc.は、米国で17番目に大きい株式非公開企業です。そして現在ではInformationWeekにおいて主要技術イノベーター500社リストのNo.9に位置しており、このリストには5回にわたって選ばれています。

よりよいレポートニングと分析を実現する為、JM FamilyはAttunityを選択しました。

### 課題一時は金なり

多くの企業がそうであるように、JM Familyは複数ソースからデータにアクセスすることに関するコストの上昇に遭遇していました。JM Familyはあらゆるソースからのデータアクセスに関連するコストの上昇に遭遇していました。当時JM FamilyはWindows/2000、Sun Solaris、Informatica、メインフレーム、VSAMやDB2/MVSなど多種多様なデータマートからなる基盤にImpromptuを使っていました。

データレプリケーションは日次ベースで行われており、それはDB2/MVSから主要なオペレーショナルデータを複製し、異なるプラットフォーム(WindowsやUNIXなど)上の各種システムへ移行する仕組みでした。このケースでは、経営分析の為に最近の変更データをDB2/MVSから様々な他の分散システムへ送信していたのです。その処理は、1月に40時間も費やしていました。それに加え、JM Familyは懸念事項としてサポート要員にかかるコストと、オペレーショナルデータのリアルタイム更新と同様にデータを移行する方法を挙げていました。

JM Familyの技術展開及び技術構成責任者であるRajeev Ravindran氏は次のように述べています。"我々はCICストラザクシオンを分散されたアプリケーションへ送る為に、全ての接続性とCDCの実現する1つのツールで標準化する必要がありました。CDC製品(DBMSに対するCDCなど)とFederated Data Access製品を更に開発し更に拡張させるというAttunity製品の戦略はCDC製品で標準化するという我々の決定事項にかなりの影響を及ぼしました。"

JM Familyはまたレポートニングと分析における効率の悪さに直面していましたが、その当時、以下のメソッドを採用していたことによるものです。

- ・接続性については、JM FamilyはDBMSの接続ツールを使っており、

レポートニングについてはCognos 7 Impromptuを通じて複数のテーブルにアクセスする為のDBMS統合ビューを作成していました。

- ・CICストラザクシオンに関しては、分散されたアプリケーションに情報を分配する為にスクリーンキャプチャーツールを使用していました。

- ・DB2のチェンジデータキャプチャに関しては、手作りのアプリケーションとData Mirrorの結合を必要としていました。

“Cognos 7シリーズとの互換性を持つ Attunityを使用し、統合プラットフォームとして標準化することを決めました。Attunityにより我々はかなりのROIを認識することができました。というのも特に DB2/MVS CDCソリューションにおいてメインフレームでのバッチ処理やCPUリソースの低減を1つのソリューションで実現することができたからです。更に、Cognosにより、我々はビジネスにおいてよりよりマネジメントを可能にする、webを通じたデータへのアクセスと分析を実現することができました。”

**Rajeev Ravindran**

Vice President, Technology Delivery and Architecture

JM Family Enterprises, Inc.

#### 利点:

- ・マーケティングプログラムに対する、トヨタとのきつい調整
- ・リアルタイムですぐに利用可能なデータアクセス
- ・Impromptuを使ったビジネスの完全なビューを実現する複数のデータベースからのアクセス及び結合
- ・変更されたデータだけを抽出する安価なソリューション
- ・コスト及び時間を低減させるメインフレーム利用の減少
- ・信頼性の向上
- ・複数タイプデータベースへのデータレプリケーション技術

Southeast Toyota Distributors, LLCの親会社として、そしての世界における巨大なトヨタとScionプライベートディストリビュータとして、JM Familyはまたオペレーショナルデータ、及びOracle及びSQL Serverに関するデータベース分析の欠落といった分析とビジネスの意思決定プロセスが不十分であることを知りました。

#### 戦略—Attunity ConnectとAttunity Stream

JM FamilyはAttunity Integration Suiteを導入しました。これにより以下のことを実現することができました。

- ・Attunity Connectによるニアリアルタイムデータ同期とマイグレーション
- ・Attunity Streamチェンジデータキャプチャ(CDC)

また、以下のことが提供できるようになりました。

- ・メインフレーム統合—ビジネスデータのアンロックと、アプリケーションおよびポータルへの複合を構築する為のサービス指向型アプローチによる複雑性及びコストの低減
- ・BIの為のレガシーデータアクセス—メインフレーム及びレガシーデータへのアクセスにより、企業の意思決定プロセスにおいて全てのデータが利用可能。
- ・リアルタイムETL—ETLの効率が劇的に向上。チェンジデータキャプチャによりデータウェアハウスの遅延が低減

フロントエンドにおいて、Cognos 7 Impromptuは Attunity Integration Suiteと共にレガシーデータソースから情報をシームレスにまとめたり、基本的なビジネス質問に対する完全に統合した回答を表示したりしています。

#### 認識された利点—ビジネスと技術

JM FamilyはAttunity Connectをメインフレームデータソースや、DB2、VSAMやその他IBMのDB2/UDNのような分散されたデータソースなどのデータ統合に利用しています。この製品は全てのデータストア間における双方向の更新を行うことができ、企業基盤の全てのコンポーネントとの接続性を実現します。そしてJM Familyはリアルタイムの有用性をビジネスにもたらしたことにより、結果として数千ドルにも及ぶ重要な費用便益につながる柔軟性と効率性の向上など、積極的な管理を行うことができるようになりました。

CDCを実現するAttunity Streamソリューションにより、JM FamilyはOracleやSQL Server RDMMS、DB2/UDBからなる複数のターゲットへDB2/MVS内で変更されたデータだけを送信しています。これによりメインフレームの処理時間を大幅に削減し、メインフレーム上でのレプリケーションを排除することとなりました。カスタマイズされた月次のデータレプリケーション処理をAttunity StreamとInformatica PowerCenterへリプレイスしました。そしてオペレーショナルデータの更新データのみをリアルタイムに(わずか数秒のレスポンス)抽出することで、作業リソースとコストを劇的に低減することができました。

Ravindran氏は次のように述べています。

“我々にとって変更されたデータの抽出とデータウェアハウスを含む他のアプリケーションへのレプリケーションを実現できる1つの製品は必要なものでした。Attunity Integration Suiteに、我々は、高い信頼性、強靱な拡張性、小さいコーディング必要性、管理のしやすさなど多くの解決策を見出しました。”

### サービス指向型アーキテクチャの構築

JM FamilyはCognos 7を利用しており、基盤がどこに位置していてもクリティカルなオペレーショナルデータの完全なビューを閲覧することができるようになりました。

以前はできなかった離れた場所に位置するデータウェアハウスの完全なデータビューを提供することにより、Attunity ソリューションはCognos 7に対し、より意思決定を支援する重要なデータを提供しています。

加えて、JM FamilyはCDCをAttunity Streamという1つの製品で標準化したことにより、各種データベースにおいて変更されたデータを受け取る為に更に個々のカスタムソリューションを構築する必要がなくなったのです。この標準化と複数データソースからリアルタイムにデータへアクセスすることは、企業に対し、開発とメンテナンスコストの劇的な低減をもたらすこととなりました。

Ravindran氏は次のように述べています。

“Attunityは今や柔軟性の向上を実現する基盤の提供と双方向の更新データ統合コンポーネントとして、我々の新規サービス指向型アーキテクチャの主要コンポーネントの一つとなっています。加えて時間とコストに関して言えば、新規アプリケーションとレガシーアプリケーションの有用性及び分散されたアプリケーション群の強化により、開発や管理用カスタムソリューションなどは

一切不要で、我々はコストを削減することができたのです。”

#### ■お問合せ先

株式会社

ハイ・アベイラビリティ・システムズ

ソリューション &

コンサルティング事業部

〒108-0023

東京都港区芝浦4-13-23

MS芝浦ビル

Tel 03-5730-8870

Fax 03-5730-8619

[inquiry\\_desk@ha-sys.co.jp](mailto:inquiry_desk@ha-sys.co.jp)

<http://sc.ha-sys.co.jp>